

平成 29 年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会 第 4 回 会 議 会 議 概 要

◇ 日 時 平成 30 年 3 月 22 日 (木) 14:00~15:40

◇ 会 場 県庁 1001 会議室

◇ 出席委員

委員長 高橋和

委 員 佐藤亜希子、三浦新一郎、三木潤一、山上絵美

(欠席：尾形律子、清野洋輔)

〈五十音順、敬称略〉

■委員の主な意見等

議事 (1) 事務事業の見直し・改善について

〈発言順〉

(佐藤亜希子委員)

- 職員のワーク・ライフ・バランスが推進されているかという点が、見直し件数と効果からは見えづらい。職員の有給休暇の取得率など、職員の労働環境の改善に係る数字を効果として提示するのも一つの方法なのではないか。
- 職員の働く環境が改善されるような取組みを期待したい。

(三木潤一委員)

- 削減された時間数は、仕事自体が減ってもう存在しなくなっているのか、違うところに振り分けられているのかを教えてください。
- 削減した金額の妥当性がわからない。事務事業評価とも関係すると思うが、削減というものがどういう成果に対して考えられているのかをお尋ねしたい。

(三浦新一郎委員)

- 事務事業評価も踏まえ、より効果が出るような見直しを来年度以降やってほしい。

議事 (2) 事務事業評価 (事業レベルのPDCA) について

(三浦新一郎委員)

- 300 の事業を短期アクションプランと連動する形で評価するというのは良いことだと思うが、かなり複雑な公開になってしまい、わかりにくいのではないかな。
- 優先順位を決めて 100 位の事業を選んだほうがわかりやすいと思うので、検討してほしい。

(佐藤亜希子委員)

- 文章でコメントをもらうだけでなく、質問形式にして選択式で回答できるようにするなど、なるべく意見が多く出るような仕組みを作ることも大切。

(高橋和委員長)

- 100 の事業を見ながら探していくというのは非常につらい。チャートで自分の行きたいところに行けるような仕組みが必要。届けたい人のところにきちんと届くように検討してほしい。

(三木潤一委員)

- 成果指標の設定が必要。何を成果指標で測れば良いのかというのは難しい問題だが、可能な限り検討した上で、事業評価を進めてほしい。

(高橋和委員長)

- 外部評価に曝すことで、内部の人たちが緊張感を持って目標達成に向かうことが期待できるので、次年度の事業評価をしっかりとやってほしい。

議事 (3) 公社等の見直しについて

- 特に意見なし。

議事 (4) 山形県戦略的広報基本指針について

(三浦新一郎委員)

- 今後、どのようなセグメントを重点ターゲットとするのかが効果的で効率的な広報戦略を展開するカギになる。戦略ターゲットとシナリオをしっかりと持ってやってほしい。
- 部局の利害関係を越えて、優先順位の高い施策を議論し、将来の山形県のために一丸となってメリハリのある戦略を立ててほしい。

(佐藤亜希子委員)

- 公の広報であるが故に非常に影響力が高いということを前提にして、まずは正確な情報をわかりやすく発信していくことが大切。
- 職員自身も県政にとっての重要な広報パーソンであるということを共通認識として持って取り組んでほしい。

(山上絵美委員)

- 広報媒体には SNS 等色々あるが、Yahoo のトップページに出るような情報が県のホームページに出ていないことがある。その辺りの連携もお願いしたい。

(清野洋輔委員) ※欠席のため、書面による御意見

- 世界的に「おしん」の認知度は抜群なので、「おしん」のロケ先を巡るパッケージなどについて、検討する価値はあると思う。
- 地域おこし協力隊の任期を終えた隊員を巻き込んだ戦略会議は効果的だと思う。

(高橋和委員長)

- 山形駅の外国人観光客の数が非常に多くなった。どういう広報手段が彼らに一番影響を与えているかを把握しているか。アピールするだけでなく、相手方

が何に反応しているかということを見ていかないとわからないと思う。

(山上絵美委員)

- 中国人留学生に中国版のツイッターで女性目線の情報を発信してもらったところ、全然知らない人たちからフォローやリツイートされた。留学生に協力してもらうのも一つの手かと思う。

(高橋和委員長)

- リツイートなどから情報は拡散していく。発信も双方向になるような手段を考えてほしい。

議事（５）県・市町村連携推進方針について

(三木潤一委員)

- 県と市町村との連携には、県と市町村との垂直連携、市町村が水平に連携するのを県が支援するという２つの捉え方がある。買い物支援については、県と市町村の役割分担をどのように想定しているか教えてほしい。

(高橋和委員長)

- 市町村連携加速事業費について、県が丸抱えしなくても事業が成立するという点では重要なのだろうと思います。

(三浦新一郎委員)

- 県と市町村との連携も大事だが、市町村同士の連携を促していくことはより重要。自発的に連携が進むようなインセンティブをぜひ考えてほしい。

(佐藤亜希子委員)

- 連携を進めていく上で、生活者の視点と行政サイドの視点とのずれをどう埋めていくかということが課題。
- 行政区域が見えない壁になっている。生活者のニーズを大事に考えた県と市町村との連携が進むことを期待している。

(高橋和委員長)

- 飛島振興重点プロジェクトは予算規模が大きいですが、なぜ飛島なのかというところを説明してほしい。
- 若い人たちが働く場所を色々なところで確保していくことができれば、もう少し人口流出に歯止めがかかると思う。
- 市町村の自発的なところを県が効率的にまとめて、色々な取組みをこれからも進めてほしいというか、もうそうしなければ生き残っていけない時代になっている。

議事（６）その他

(三木潤一委員)

- これから更にもう一步踏み出すには、原理原則に立ち返る必要がある。本当の意味での選択と集中が必要になってくる。それをどう整理していくのかを考

えていかなければいけない。

(山上絵美委員)

- 普段川西町のことばかり考えているが、山形県としての視点も必要だと感じた。

(三浦新一郎委員)

- 県の強みは山形県の製造業に資するのではないかと思う。こちらをもっと活かしていくような施策、メリハリのきいた戦略ということも考えていかなければならない。

(佐藤亜希子委員)

- これから一県民として県政に対してもっと関心を持ち続けていかないといけないと考えている。
- 10代、20代の自分たちの子どもの世代に自信を持ってバトンを渡せるような地域を、山形全体で作っていきたい。それを担う一人でありたい。
- 職員も、今やっていることが10年後、20年後の未来の山形を作っているという自信と誇りを持って取り組んでほしい。

(高橋和委員長)

- 事業を点検する際、スタートのところを点検して縮小やマイナスと決めるが、ビルドがどこにあるか見えない。これから指標を作るのであれば、+α何ができるのかということの議論もしてほしい。主体性や柔軟性を持たせて、現場でうまく活かされるようにしてほしい。

以上